

施策評価シート (平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成24年 04月 06日

施策 No.	11	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	生涯学習課、福祉課		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度見込
人口	人				83,392	82,997	82,584	82,136	85,500

施策の意図	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力のある生活を形成する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	市民意向調査及び、スポーツ振興課の集計により把握する。 ・市民意向調査は平成24年6月の調査結果を使用する。								
成果指標名	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	26年度基本計画目標値
何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	%				49.1	55.4	54.8	49.6	55.0
市のスポーツ施設利用者延べ数	人				472,749	479,683	473,299	449,285	550,000
スポーツ教室数	教室				14	16	17	16	
参加人数	人				283	436	451	546	

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	スポーツ・レクリエーションは市民が自主的に行うことが基本である。行政はスポーツ・レクリエーション活動の機会の提供と施設などの環境の整備が役割となる。
-------------------------	--

<p>23年度の 評価結果</p>	<p>1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）</p>
	<p>(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較） 何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合は、平成21年度：55.4%、平成22年度：54.8%、平成23年度：49.6%と低下している。 しかしながら、平成23年度の大きな減少については、東日本大震災により施設が損傷し2箇月から半年の間使用不能であったことが影響していると考えられる。</p> <p>(2) 近隣他市との比較 県内他市では同様な調査をしていない市もあるので、比較するのは難しいが、平成23年度の「栃木県政世論調査」では、スポーツ活動実施率（週1日以上スポーツをしている比率）は37.1%であるのに対し、真岡市の「市民意向調査」でのスポーツ・レクリエーションの実施率は49.6%と、県と比較して高い水準にある。</p> <p>(3) 住民期待水準との比較 これから何らかのスポーツを始めたいと思っている比率は55.9%（市民意向調査より）</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括</p>
	<p>スポーツ・レクリエーションへの取り組みのきっかけとして各種スポーツ教室を開催している。教室数と参加者数は、平成21年度が16教室、436名、平成22年度が17教室、498名、平成23年度が16教室、546名(震災により2教室中止)であった。 内容についても、子ども向け、親子向け、一般向けと年齢・性別を問わず参加できるものとしている。</p> <p>また、昨年度は全国スポーツ・レクリエーション祭が開催され、真岡市ではバウンドテニスが開催されるのに合わせて、バウンドテニス教室・交流大会を開催した。</p> <p>加えて、スポーツ・レクリエーション活動拠点として総合運動公園の全体整備面積26.6ヘクタールの内、第1期工事（陸上競技場）7.8ヘクタールを8億7800万円の事業費で平成23年度より3年間の予定で着工した。</p>

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

市民意向調査結果では、今後行ってみたいスポーツ・レクリエーションとして、ウォーキングやハイキングの割合が高いため、ニーズに応じてウォーキング教室やトレッキング教室を開催する。

また、パウンドテニス、ショートテニス、スマイルボーリング、スポーツ吹矢等のユーススポーツの教室も開催する等、スポーツ教室を増やし、スポーツ・レクリエーションに取り組む機会を増やす。

さらに、平成26年度にはねんりんピック栃木2014が開催され真岡市ではマラソン交流大会が開催予定であり、シルバースポーツ実施率の向上を目指す。

また、引き続きスポーツ・レクリエーション活動の拠点として総合運動公園の整備を図る。

23年度の
評価結果

補足事項